

**お**気に入りのエッセイ集が一冊、ずいぶん長い時間ぼくの本棚の一番いい場所に置いてあります。粗目の麻で編んだような素材での表装が独特の手触りのとても可愛らしい本です。奥付から著名な装丁家が手掛けたものだとわかります。内容は世界のあちこちを旅した作者がさまざまな国で手に入れたお気に入りの雑貨や小物、普段から愛用しているちょっと変わったブランドの日用品たちを短いエッセイで紹介している本です。

その本に1台の35mmフィルムカメラが登場します。かつてはスパイの小道具として有名になったラトビアに端を発するカメラメーカーの小型カメラなのですが、作者は機能面やレンズの光学的スペックよりもこのカメラの佇まい、そして鮮やかなオレンジ色の目の覚めるような色合いのシャッターボタンについてのすばらしさを語っていました。学生だったばくもいつかこんなカメラを手に入れてみたいものと思ったものです。やがてばく自身も写真家になり、これまで色々なカメラを手にしてきました。しかし、この本に登場する色気を感じるようなカメラとはなかなか出会えません。やがてフィルム感材からデジタルシステムへ、記録方法やカメラメーカーの変化などさまざまな時代の

# 電子寫眞機戀愛

デ ン シ シ ャ      シ ン キ レ ン ア イ

五十七夜 第

北欧舶来高級中判ミラーレス、

ハッセルブラッドX1D II 50C

移ろいでいつしかすっかり忘れていたのですが、今回このハッセルブラッドX1D II 50Cを見た瞬間、かつて片岡義男氏がエッセイで取り上げた欧州生まれのあのカメラへの思いがまざまざと蘇ってきたのであります。

もちろんこのふたつのカメラに欧州生まれという以外共通点はありません。メーカーやフォーマットさえ異なり、時代をも隔てたふたつのカメラが重なって見えるのは、ボディのデザインから漂うヨーロッパのエッセンスのためなのでしょうか……。

このX1D II 50Cは5000万画素の中判センサーを搭載しているながらフルサイズミラーレス機とそう変わらないサイズと650gという質量の美しいボディは、いつ

までも眺めていられるような佇まいを持っています。そのアルミニウムから削り出された堅牢強固な外装は高い耐久性を誇り、質感は手にした写真家へと厚い信頼となって返ってくるようなのです。

そしてプロフェッショナル向けと言える中判デジタルカメラながら、極めてわかりやすいインターフェースを備えているのであります。タッチ操作の背面モニターの直感的なピクトグラム表示は初めて本格的デジタルカメラを手にするユーザーにも容易に扱え、APS-Cサイズやフルサイズクラスを飛ばして最初から中判デジタルでデジカメにエントリーするのもアリなのではないかと感じる扱い易さ。

この扱い易い操作性と3.6インチのタッチパネルの大型背面モニターは高精細な236万画素、そして電子ビューファインダーは369万画素の有機ELと優れたスペックのファインダー関連。タッチミスを防ぐ大型モニターと高精細なファインダーは隅々まで構図と被写体のチェックが行え、自信と責任を持ってシャッターをリリースできる安心感。写真を撮るためミスとストレスを感じることを減らそうとする設計が伺え、ころんとしたどこか愛らしいフォルムとは裏腹に非常にシビアな職業写真家に向けてのカメラであるということが構えた瞬間に伝わります。

そしてそのシビアさはハッセルブラッドXシステムのレンズについても同じであります。

今回テストしたレンズはXCD 4/45P。現在市販されている中判デジタル用オートフォーカスレンズとしては最軽量の320g。35mm半換算では36ミリにあたるレンズで開放F値4でその描写力は画面の隅々まで行き届いたシャープネス。そして軽量コンパクトなレンズながらシャッターを内蔵するレンズシャッター方式。これにより最高1/2000秒のシャッター全速域でストロボとの同期が可能

になり、あらゆる条件下で効果的なシンクロ発光を行えるのであります。X1D II 50Cのコンパクトなボディとこの軽量のレンズの組み合わせは中判デジタルカメラを携行していることを忘れさせる軽快な組み合わせです。

ふつうのフォーマットでは満足できない貴方、中判デジカメは如何？



## ハッセルブラッド X1D II 50C

ボディ / 価格71万5000円。装着レンズはXCD 4/45P/価格14万3000円。  
 ©ハッセルブラッドジャパン ☎03-6434-9567



### ●こんな写真に戀をする (スナップ編)

象使いのタイの兄さんの持つ象使いステッキが剣呑すぎてカッコイイ！ 思わずスナップ！ そんな小型カメラの小回り撮影もこなせるX1D II 50C。記録形式がJPEGかRAWかもしくはどちらも同時記録という3つの記録形式なのですが、5000万画素の中判カメラらしいJPEGで一枚20メガを軽く超えるデータ量。その点留意して撮影をエンジョイすべし。RAWで追い込む現像も楽しいですがJPEGでも気軽に高精細高描写です。



●撮影データ  
 シャッター速度: 1/40秒  
 絞り: f6.3  
 撮影感度: ISO200  
 露出補正量: +0.7

### ●こんな寫眞に戀をする (ランドスケープ編)

なんといってもラージフォーマットの中判デジカメですから、その圧倒的高精細な画像と描写力を存分に楽しむにはやはり広大な風景が最適。目の前の全部を描写したあと「ああ、こんな細かいとこまで写ってるんだ！」とPCの前で驚く醍醐味。どこまでもトリミングできそうな中判デジカメならではのアドバンテージを満喫してください。

●撮影データ  
 シャッター速度: 1/400秒  
 絞り: f8  
 撮影感度: ISO200  
 露出補正量: +0.7



### ●スカンディナヴィア半島生まれの戀するフォルム!

中判というフォーマットを考えると極めてコンパクトなボディサイズのX1D II 50C。アルミブロックから削り出された高剛性ボディはコンパクトながらもずしりとした手応えを感じ、その北欧らしいデザインはいつまでも眺めていられる。そして鮮やかな金色がかったオレンジのシャッターボタンがシャッターをリリースするという行為を特別なものと考えさせる演出をしてくれているのです。



### ●どうだい見てくれの色気

カメラグリップ部分には電源スイッチにAF/MFの切り替え、ホワイトバランスとISO設定、沈黙してロックするモードダイヤル、前後のホイールに鮮やかなシャッターボタンだけという操作系のミニマリズムに成功したX1D II 50C。モデル名の下に刻まれた「HANDMADE IN SWEDEN」の文字に自信があふれている。

こ  
ん  
な  
ト  
コ  
ロ  
に  
戀  
を  
す  
る